

登録コード	F3D10110	開講年度	2026				
授業科目	新入生ゼミナール（応生）					担当教員	野川 優洋 他
英文授業名	Fresher's Seminar					副担当	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	水曜・3時限	対象学生	
講義室	共通教育6 2 講義室			授業形態	演習	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー 該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					⇔	【授業の達成目標】
	2 6 Fカリ・応用生物, 2 5 Fカリ・応用生物, 2 4 Fカリ・応用生物, 2 3 Fカリ・応用生物						
	生物科学の応用に際して直面する課題を理解し、自立して問題解決の方法を探す能力					⇔	自分の頭で考え、自らの努力で調べ、自ら進んで学ぶ姿勢が身につく。
	自分の考えを伝え、チームとして行動できるコミュニケーション能力					⇔	新入生ゼミナールでの課題を通してグループとして意見をまとめる能力が身につく。
(2)授業で学べる「テーマ」	その他						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	第1・2回は情報セキュリティとノートパソコンの使い方を学び、第3回は図書館ガイダンス、第4・5回はノート・レポートの作成方法について実習をとおして学ぶ。第6回以降はeALPSにアップロードされている各授業の概要を把握し、学生自らが課題に取り組むことが求められる。各授業は主体的に取り組むことで、勉学に必要な基本的能力を涵養する。						
(5)授業計画	第1回 野川 ノートパソコンの使い方（学内ネットへの接続、履修登録、信州大学メール） 第2回 野川 情報セキュリティガイダンス（オンデマンド50分）・グローバルガイダンス（オンデマンド30分） 第3回 野川 図書館ガイダンス（対面60分）・こころの健康・大学生活のリスク対策（オンデマンド） 第4回 野川 ノートパソコンの使い方（ワード）・新入生調査（WEB入力：5月12日以降） 第5回 新井 理系作文・ノート・レポートの作成法、メールマナー 第6回 根岸 生物の特性を利用した生体材料 第7回 白井・塩見 昆虫に学ぶ生物学1 第8回 塩見・白井 昆虫に学ぶ生物学2 第9回 高島 男性不妊 第10回 矢澤 シルク・軽くて強いタンパク質繊維 第11回 橋本 環境・ヒトに関わる生分解性材料・吸収性材料 第12回 新井 タンパク質・生物が創る究極のナノマシン・ナノマテリアル 第13回 野村 RNAの不思議な働き・RNAワールド仮説 第14回 小笠原 バクテリアとの共存について考える 第15回 野川 遺伝子組換え植物について考えよう＋授業アンケート これ以外に課外研修が4月25日（土曜日）に入る予定です。						
(6)成績評価の方法	第1回から5回は、課題のレポート50%及びゼミに取り組む姿勢50%の評点で評価し、試験は行わない。第6回から15回までの各授業と課外研修はeALPSにアップロードされているそれぞれの成績評価の方法に従う。欠席した場合、その回の評価は 0点となるので、欠席回数が増えると単位の修得が困難になるので注意すること。						
(7)成績評価の基準	新入生ゼミナールの授業目標：自分の頭で考え、自分の努力で調べ、自分の言葉で表現し、自ら学ぶ姿勢を身に付ける。この授業目標に対して、まじめに授業に取り組み、それぞれの課題レポートにたいして、以下の項目1：自分で調べ、2：考え、3：その内容を自分の言葉で表現したものとなっているかで判断し、普通に書かれていれば「水準にある」、よく書かれていれば「やや上にある」、優れている場合は「かなり上にある」、特に質、量とも優れていると評価できる場合には「卓越している」とする。						
(8)事前事後学習の内容	eALPSにアップロードされる授業の概要に従い、授業に対する準備（事前学習や調査）をしてから授業に臨むこと。また、レポートや課題が課されるので必ず提出すること。なお、この授業は90時間の学修を必要とする内容である。従って、60時間以上の時間外学習が必要となる。						
(9)履修上の注意	新入生ゼミナールは、繊維学部応用生物科学科の必修科目である。自律的、自発的に学ぶことが強く期待されている。指示された課題やレポートを誠実に作成し、期限までに提出することが必要である。なお、第1回から5回の授業ではノートパソコンを持参する必要がある。第6回から15回までの授業では、複数の授業の課題を同時進行で取り組む必要がある場合もあるので注意すること。						
(10)質問、相談への対応	最初の時間に教員のメールアドレスや電話番号などの連絡方法を知らせる。アドレスがわからない時は、mnogawa@shinshu-u.ac.jp(野川)宛に送ること。						
(11)学生へのメッセージ	高校までの受け身の姿勢ではなく、自ら積極的に取り組むことで学問の世界は広がり、大学生活が充実したものになります。この新入生ゼミナールを通じて自ら調べ、考え、自分の言葉で表現する事を通して積極的に取り組む姿勢を身につけましょう。						
(12)その他							
【教科書】	指定しない。						

【参考書】	必要に応じて紹介する。
-------	-------------